

<書評>

理想的に剖出展開された解剖野を書籍上に再現した唯一無二のアトラス

「解剖学カラーアトラス 第9版」

J. W. Rohen, 横地 千仞, E. Lütjen-Drecoll ●著

評者 弦本 敏行(長崎大学教授・肉眼解剖学)

定番の『解剖学カラーアトラス』が第9版に改訂されました。前回から実に7年の歳月を経ての待望の改訂です。初版は1985年に出版されていますが、本書がこれまで一貫して評価されてきたのは、理想的な状態で剖出展開された解剖野の再現を、最高品質の写真画像で追求した点です。本書を構成する数々の精密な写真は、美しいグラフィックと比較しても、はるかに正確かつリアルに対象を描出しています。模式図やイラストで構成される多くの類似書とは一線を画する貴重な解剖学アトラスです。これらのリアリティあふれる写真画像の提供を可能にしたのは、高い技術を持つ独日両国の熟練した解剖学研究者たちと、対象物を忠実に再現するプロカメラマンとの、高いレベルにおける共同作業でしょう。

これらに加えて、この第9版では医学生の学習効率を高めるための多くの進化が確認されます。まず、目次を見て気付くのは、本書を構成する各章の順番が整理されていて、他の多くの解剖学の教科書との整合性が図られていることです。このことによって、実際の解剖学実習のための副読本としての利便性は一段と向上するでしょう。

旧版と比較して40ページ以上増量したページをめくると、紙面のデザインやレイアウトが一新され、より洗練された印象に仕上がっていることがわかります。また、写真の理解を容易にするために工夫された多くの簡潔なイラストや説明文が効率よく配置されています。

さらに、第9版の一番のアピールポイントは、医学生が多種多様な系統解剖学的構造と位置関係を容易に理解できるように工夫された「学習ボード」の採用でしょう。肉眼解剖学の学習において、系統解剖学と局所解剖学はいわば車の両輪です。このことは教科書や参考書においても同様ですが、それらを一冊のアトラスにまとめようとした試みは歓迎に値します。その学習上のメリットと完成度に関しては、ぜひ店頭で実物を手に取って確認していただきたいと思います。

今回、新たに筋や肝臓、骨格標本の写真も加わったことで、説得力ある写真画像の連続性はこれまで以上に圧倒的です。加えて、新たに撮影されたMRI画像やCT画像と実際の解剖体横断画像とを並べて配置することで、臨床診療科目を学習する医学生にとっても頼れる参考書に仕上がっています。『解剖学カラーアトラス 第9版』は、これから医学を学習する初学者ばかりでなく、高学年の医学生に対しても最適な選択肢を提供してくれるでしょう。さらに、日々の診療に取り組む臨床医にとっては解剖学的知識を再確認するための有効なツールとなるでしょう。

●「解剖学カラーアトラス 第9版」

A4・頁632 2023年02月

定価：13,200円(本体12,000円+税10%)

[ISBN978-4-260-05048-7] 医学書院刊